



カムカムよってって



2024年特別号よってって在宅診療所
052-626-1215 E-mail:yottette-zaitaku@minami.or.jp

研修医ってどんな人？

研修医2年目の筑みなみ(かけひみなみ)です。研修のご縁で、言葉を寄せる機会をいただきました。ありがとうございます。皆さまは研修医をご存じでしょうか？医師は医師国家試験に合格した後、2年間の臨床研修を受けます。この期間中の医師を研修医といい、内科や外科、救急医療などさまざまな診療科での経験を通じて、医師としての基本的な技術や知識を深めるとともに、患者様とのコミュニケーションやチーム医療の重要性を学びます。南生協病院では1年目7名、2年目5名が所属しています。各科で診療に入らせていただくことがあります。どうぞご協力をお願いいたします。

生活のそばに、訪問看護

訪問看護は、患者様の自宅を訪れて看護を提供する仕事です。訪問看護支援は多種多様で、気管吸引、爪切り、入浴介助にとどまらず、私が同行した家では冷蔵庫のおかずの賞味期限も一緒に確認していました。訪問看護師さんは、「よりよく生活できることを目指して一緒に考えることが楽しいんですよ」と教えてくださいました。多職種の連携が本当に大切だと思う一日でした。

すこしフクザツ！制度の話

在宅診療所にいると、暗号が聞こえてくることがあります。「マルフクの申請してたっけ？」「シンショウの確認してね」マルフク？シンショウ？はじめは私もなんのことやら…でしたが、マルフクは医療福祉費支給制度、シンショウは身体障害者手帳のことでした。日本には医療、介護、福祉で生活を支える仕組みがたくさんありますが、少しフクザツです。もし気になることがあれば担当のケアマネージャーさんへ、または暮らしの保健室に気軽にお立ち寄りください。

在宅診療の大事な役割「意思決定支援」

「今どんなふう感じていらっしゃるでしょうか？」
これは1ヶ月の在宅診療研修で、私が何度も耳にした言葉です。ある診療では、ご夫婦で長く自宅で過ごされていた方で、高齢のためいよいよ生活維持が難しいと心配した息子が同席されていました。施設や病院で過ごすこともできますよとお伝えし、奥様にお気持ちを伺ったところ「病院に行ったら死ぬまで出てこれないと思う。絶対に家がいい、家で死にたい。」と教えてくださいました。最終的にはヘルパーの回数を増やして様子を見るということで落ち着きました。患者様のお気持ち、ご家族様の心配、多職種からの理解があつての着地点だったと思います。指導医の先生は、「在宅で一番大切なことは、意思決定支援だよ」と教えて下さいました。気持ちを伝えてもらえる、受け止められるかかりつけ医を目指して日々精進します。

